

新井中央小だより

No. 313

ホームページ <https://myoko.schoolweb.ne.jp/15020005>メールアドレス myoko.araichuou-es@edu-niigata.ed.jp

2025（令和7）年12月23日

挑戦する気持ちを支えるもの

2学期も、残すところあと1日です。2学期の登校日79日、子どもたちは元気に登校しました。

今学期始業式で、子どもたちに「挑戦する2学期にしましょう。」と話しました。その言葉どおりに子どもたち一人一人が、様々なことに挑戦したと感じています。運動会や学習発表会、市親善陸上大会、市小中特別支援学校音楽発表会、修学旅行などの学校行事、日々の学習、なかよし班活動など、様々な活動で高い目標をもち、新しいことや今までできなかったことにも、挑戦していました。休み時間なども、子どもたちは一輪車や鉄棒の技の習得にがんばっていて、そこに行くと、「校長先生も挑戦してみてください。」と、反対に子どもたちから挑戦を促される程、子どもたちは「挑戦する」ことを意識して学校生活を送っていたようです。人間関係づくりもそうです。今まで話をしたこともないけれど新しい仲間とかかわってみよう、今までけんかしていた友達に声を掛けてみようなどと、勇気を出して人とかかわることに挑戦してみると、新たな友達の良さに気付いた子どももいたようです。

ただし、挑戦して上手くいくこともあります、失敗したり、くじけそうになったりすることがあります。また、時には上手くいかずに感情的になったりする場面もあります。そこで、周囲の大人は子どもが自信をなくしてしまわないように配慮が必要です。次の3つの配慮が必要だと考えます。

一つめは、挑戦してできたこと、できなかったことに目を向けるのではなく、挑戦している姿そのものに価値があることを大人も認識し、それを子どもに伝えていくことです。失敗しても、上手くいなくても「大丈夫だよ。すぐに上手くいなくてもいいんだよ。でもあきらめないで挑戦している姿がすばらしいね。」などと何度も声を掛けてみては、どうでしょうか。子どもが、「挑戦することが心地よい」と感じるようにしてあげます。

二つめは、周囲の子どもたちの支えです。秋に6年生の体育のゲストティーチャーで呼び出したパラリンピック車椅子バスケットボール元日本代表キャプテンの根木 慎志さんは、小学生の頃、跳び箱を跳ぶことができなかったそうです。体育の授業で跳べなかった時に、最初は友達から笑われたそうです。笑われたことで落ち込んだそうですが、次の時間も挑戦しました。また、跳ぶことができませんでした。しかし、今度は跳べなかった時に友達から励まされたそうです。がんばって挑戦し続けると拍手もされたそうです。こうして、失敗しても挑戦し続ける根岸さんが、パラリンピックにも出る選手になったそうです。上手くいなくても、努力し続ける力の源は、友達の励ましや温かな言葉かもしれません。

三つめは、「今日の自分もみんなも、昨日までの自分やみんなではない」ということを子どもたちに認識させることです。子どもも大人も目の前の児童のことを、比較的今までのその児童の姿を思い浮かべてイメージします。「今までの自分の姿で見られている」という気持ちが大きく、「今までの自分を変えることはできない」と認識してしまうと、「挑戦して自分を変えていこう」「新しい自分になろう」という意欲が高まらないそうです。「今日の自分もみんなも、昨日までの自分やみんなではない。新しい自分や新しいみんなの良さを発見しよう。」という気持ちをもつことができたならば、挑戦する気持ちが高まります。

挑戦するには、その基盤として「安全基地」「安心基地」が必要です。「安全基地」は安全な場です。危険に出くわしたときでさえも、側にいて「大丈夫だよ」と言ってあげるだけでも、効果があります。「安心基地」は、その大人と一緒にいて活動するとポジティブな感情が生まれる場です。私たち新井中央小学校の教職員も、そのような「安全基地」「安心基地」をつくり、上記の3つの配慮を意識しながら指導や支援にあたっていきたいと思います。ご家庭や地域でも、子どもたちが様々なことに挑戦し、成長につながるようご支援をお願いいたします。

2学期中も、保護者・地域の皆様には、たくさんのご協力をいただきました。深く感謝申し上げます。